



幸せな世界を目指す

年末、りす組保護者でプロミュージシャンの高木さん率いるドラムとマリンバのコンサートを、園内ホールで開催しました。保育園という生活の場で、知っているパパである高木さんの演奏を聴くことは、子どもたちにとって敷居が低く、かしまらず本物に触れることができる機会となっています。そこにマリンバが加わったことで、新たな世界が広がりました。

ドラムもマリンバも打楽器です。打楽器、弦楽器は空気を直接震わせるので、子どもの感性に直接音を届けることができるという説があります。7歳までは打楽器、弦楽器が子どもにとって心地よいという説です。子どもたちの様子は、集中して微動だにしない子、手を叩いて喜ぶ子、踊る子、知っている曲を喜び歌う姿、心地よくて眠ってしまう姿もありました。大きな音の打楽器ですが、打楽器の音の中で子どもは眠ってしまうことがよくあります。私の推測ですが、空気を直接震わせる打楽器はお母さんのお腹の中で感じていた心拍の振動と似ている為、リラックスし子どもは眠ってしまうのではと考えます。コンサートでは子どもたちの歓声、寝顔、職員のうれしい顔に、幸せな気持ちになりました。

どうして音楽を聴くと楽しくなり、赤ちゃんから大人まで幸せになってしまうのでしょうか。教育的効果は？検索してみました。「耳から入った音楽は、脳へと伝わり全身に影響を及ぼします。自律神経系に作用し、心拍や血圧が変化し、興奮、鎮静、リラクゼーションなどの効果がもたらされます。心の状態にも影響を与え、感情、知覚、認知を活性化させることがわかっています。リズムによりリズム感が育ち言語のリズム能力も高まります。様々な楽器の音を聞き分けられるようになることで、発音の違いもわかるようになります」なんと、良いことだらけです。そして生バンドの響きは配信やCDで聴くより、格段心に届きます。

音楽会の最後には、りんご・ことり組保護者のバックマンさんがサンタクロースになって保護者の会からのプレゼントを届けてくれました。「本物のサンタだ！」と喜ぶ子どもたち。コロナ禍が過ぎ、子どもたちの幸せのために保護者、職員で手を繋ぐことが復活できたことは、令和5年度の大きな幸せです。

感性を育む乳幼児の時期に、本物を体験し、心を震わせる体験を重ねていくことは、その子の一生の支えとなる文化を育むこととなります。新田保育園の創設に関わった、故曾根園長は「子どもには本物を 良き文化を」という言葉を残しています。令和5年度はコロナ禍を終え、文化の体験、共有を取り戻した年でもあります。子どもの幸せを望むなら、音楽を。外遊びを。読み聞かせを。匂い、味の体験を。心を震わせ五感で感じる体験、文化を生で伝えるのは大人の役割です。🍷🌸🍀🍊🍡🍓🍷🌸🍀🍊🍡🍓

世界を見渡すと、私たちの子どもたちと同じ世代の子どもたちが、苦しく辛い状況の中にいます。高木さんのコンサートで子どもたちと歌った曲の一節から。「世界中だれだって ほほえめばなかよしさ みんな輪になり 手を繋ごう 小さな世界」令和6年、みんな輪になり手を繋ぐ新田保育園を、子どもたち保護者の皆さま職員で創ってきましょう。新田保育園で育んだ小さな幸せを、大きな世界に広げていけますように。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
1月				保育初め	頭シラミ確認				ぞう組個人面談		みかん組懇談会	もちつき・誕生会・写真撮影				健診・0・3歳		避難訓練					健康体育		お店屋さんごっこ	ことり組懇談会						